

1. 調査概要

調査主体 :東京大学廣井研究室
国土交通省

調査期間 :平成17年11月14日(月)~22日(火)

調査方法、調査数 :面接法により375票回収(調査対象数:399)

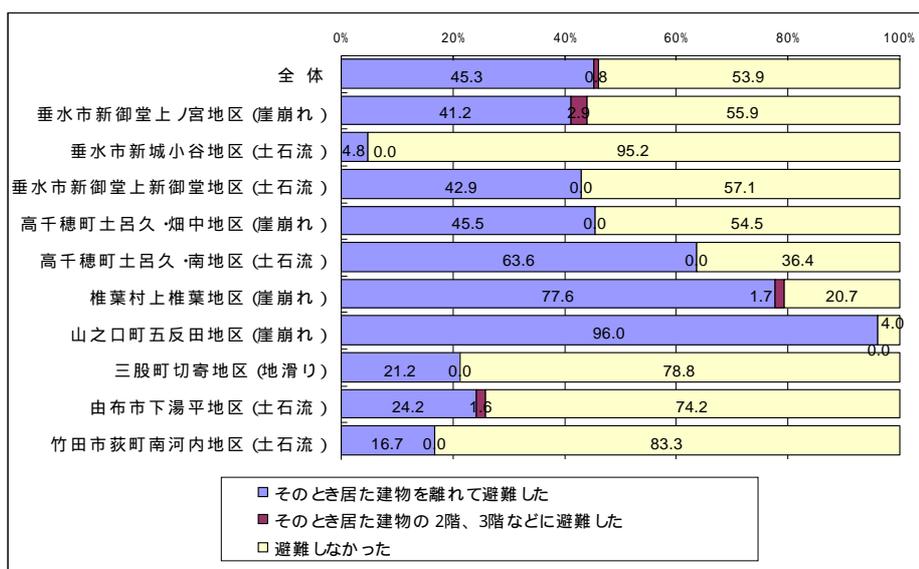
うち鹿児島県 77票
宮崎県 200票
大分県 98票

2. 調査結果概要

土砂災害の被災箇所での避難率について(Q8)

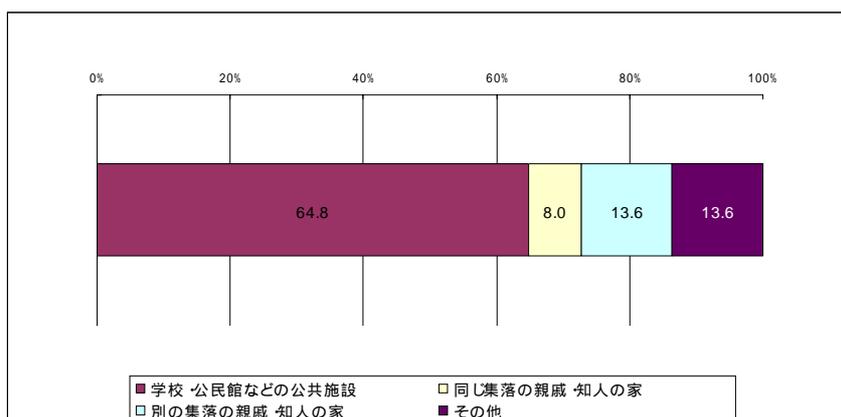
自主避難でも避難率は比較的高かった

- ・全体平均で45.3%の世帯が自宅を離れて避難した。
- ・高千穂町、椎葉村、山之口町で避難率が特に高かった。

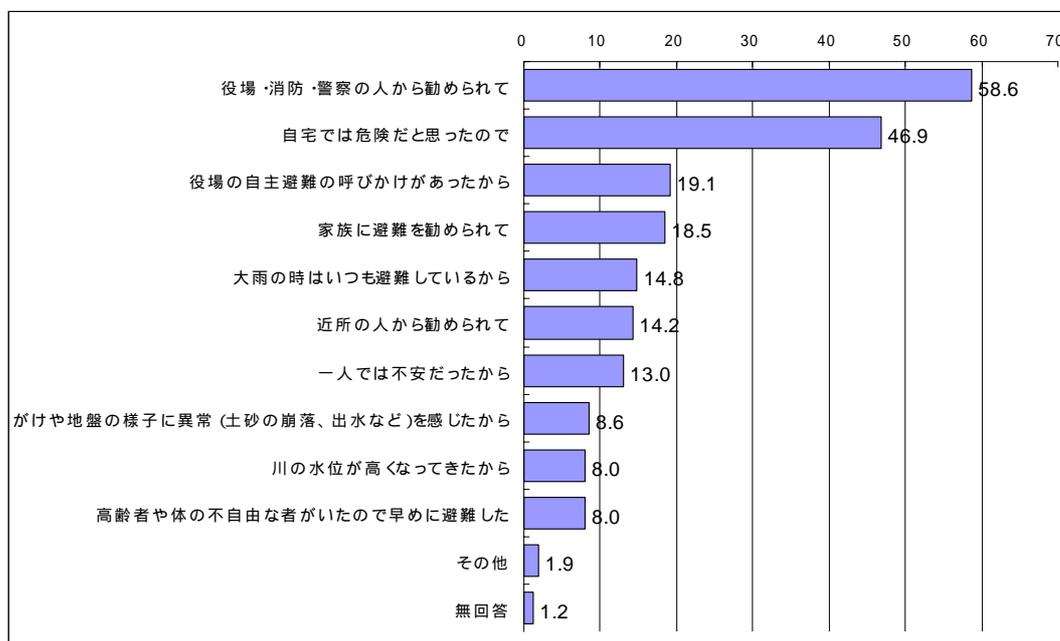


災害前に避難した場所はどこか(Q8 - 付問1)

避難場所は6割が公的避難場所



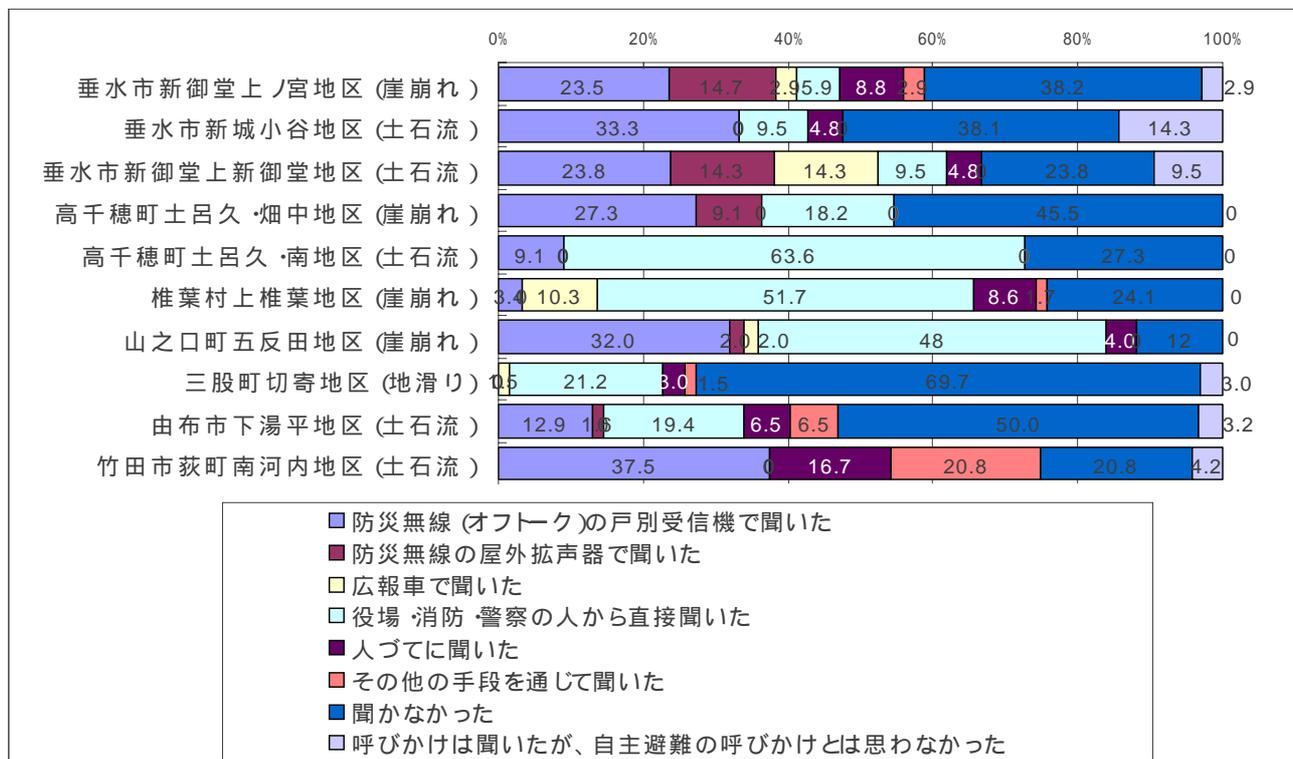
災害前に避難したきっかけは何か（Q 8 - 付問 4）
行政の説得が避難につながった



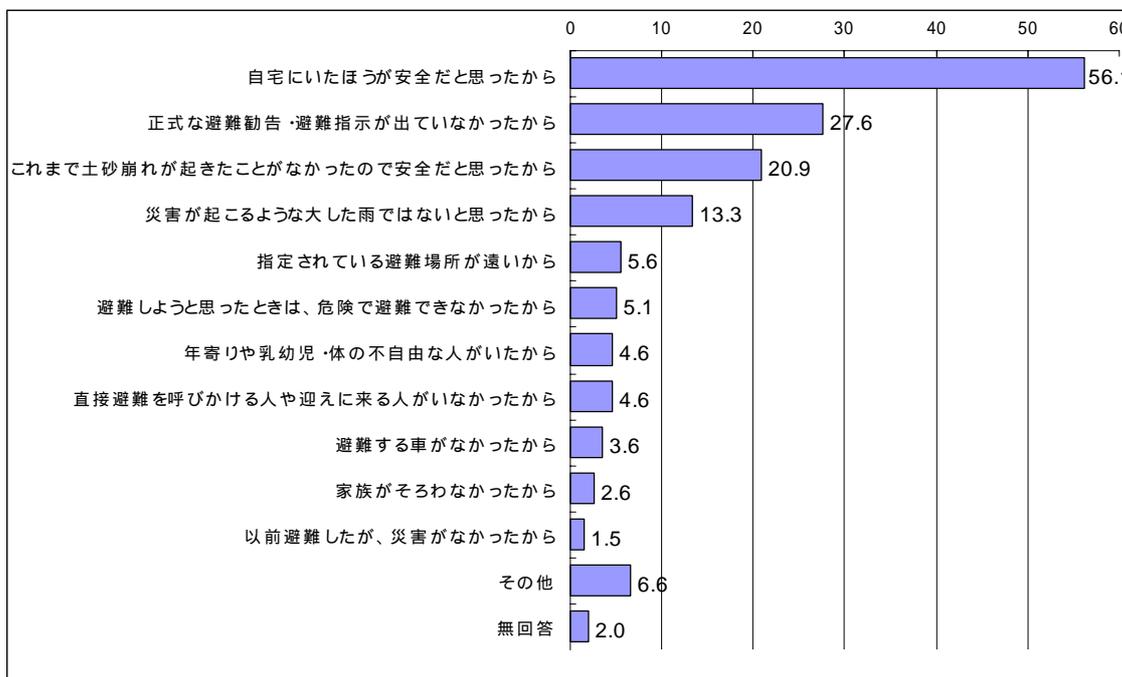
災害前に役場の自主避難の呼びかけを聞いたか（Q 7）

避難率の高い高千穂、椎原、山之口では行政から直接、自主避難勧告を聞いた人が多い。

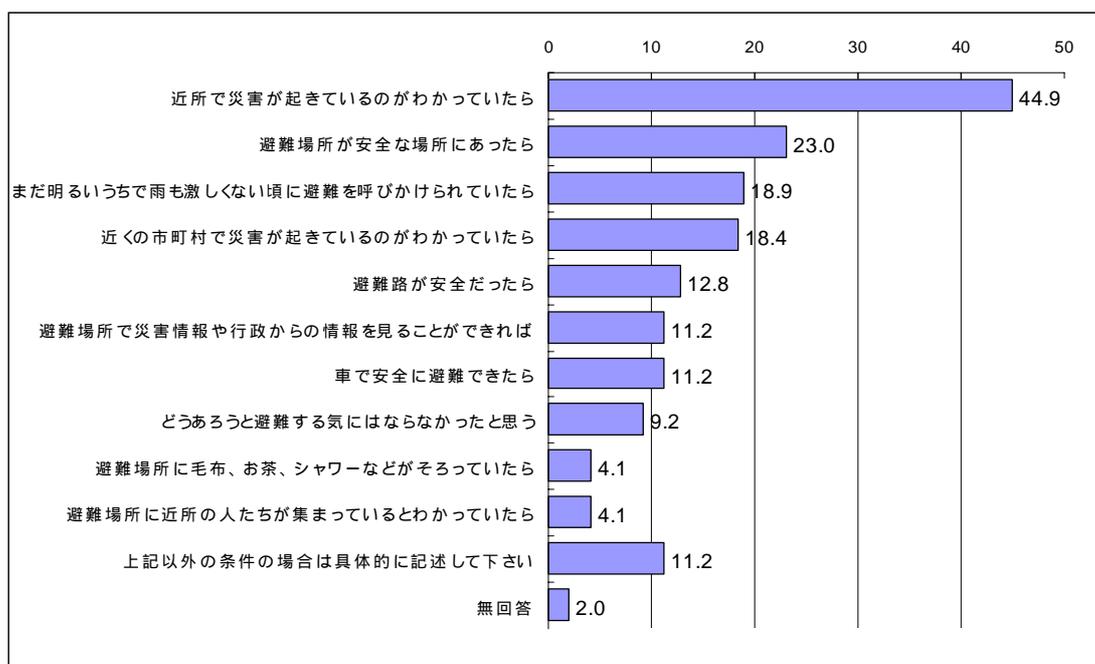
一方避難率の低い竹田では直接聞いた人はいない。



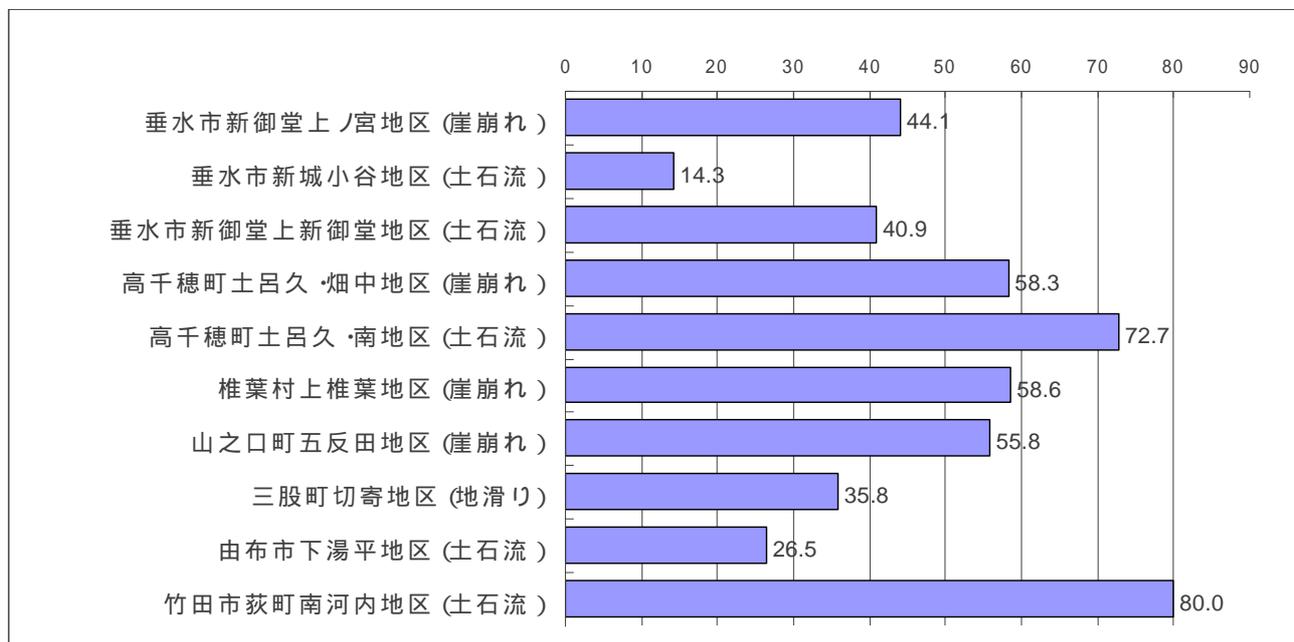
建物の外に避難しなかったのはなぜか (Q 8 - 付問 5)
 自宅は安全だ、との認識が避難を妨げた



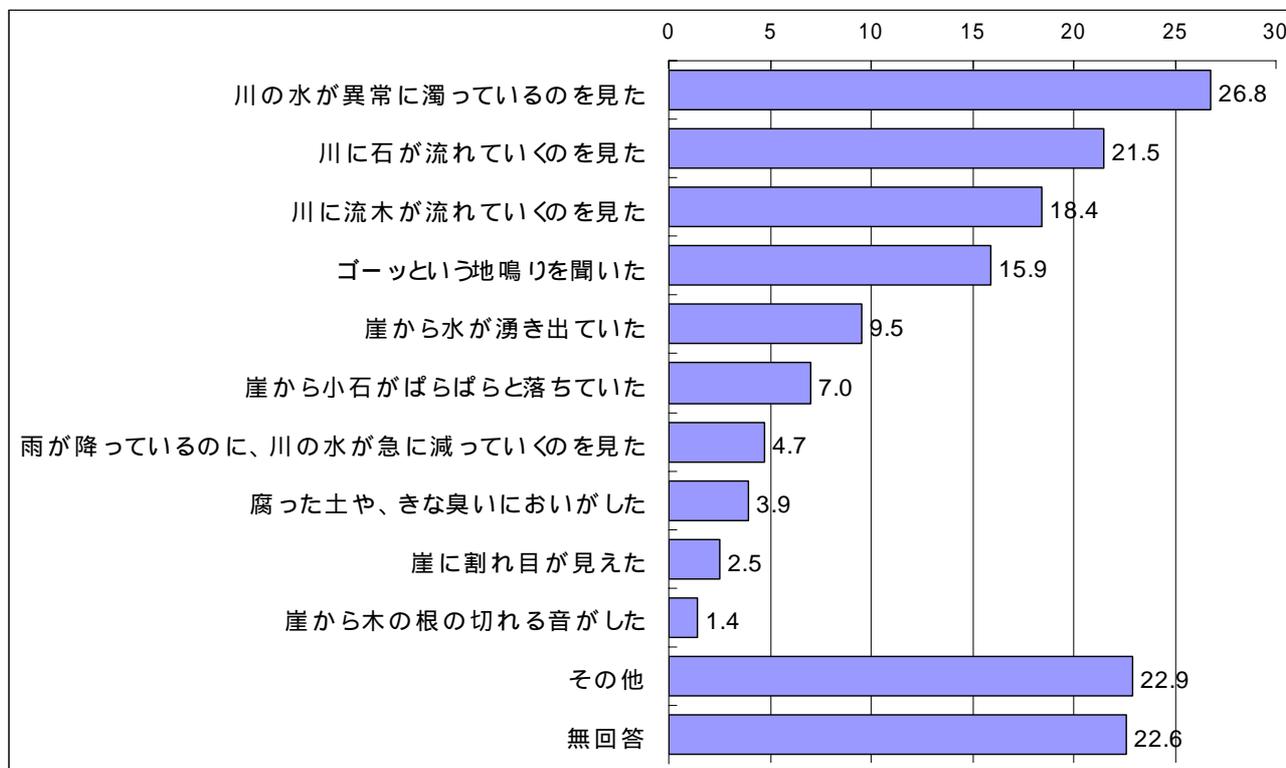
どのような場所だったら避難する気になったかと思うか(Q 8 - 付問 6)
 近所の被災情報が避難を促進する可能性



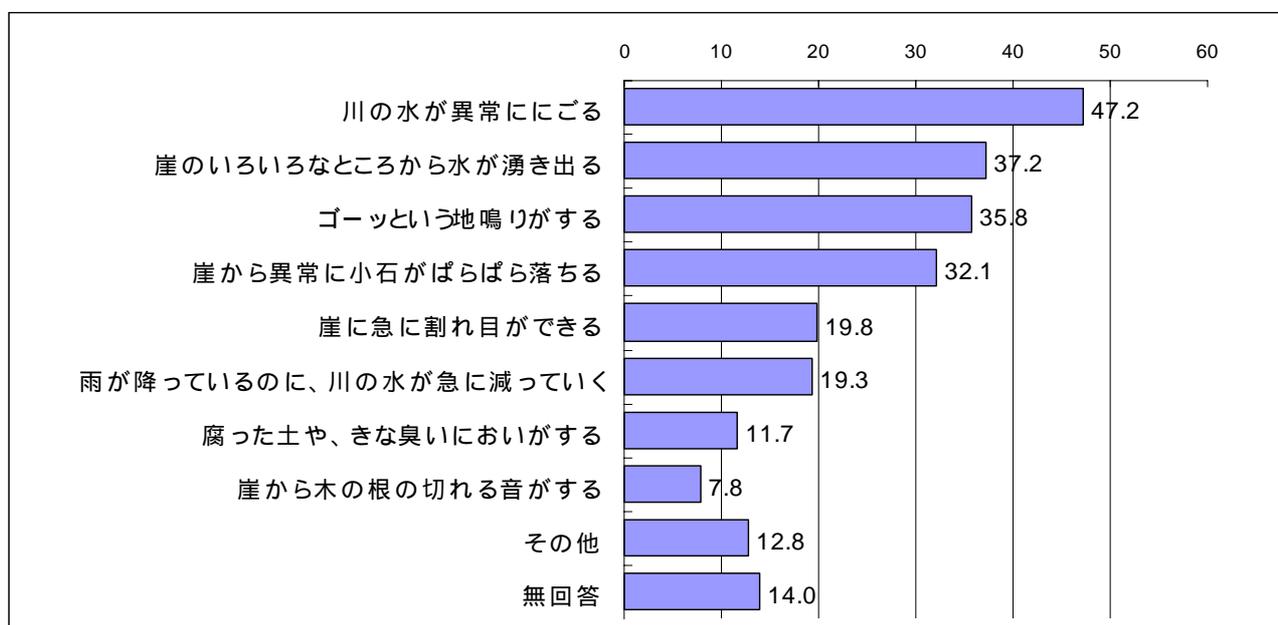
自宅付近は土砂崩れの危険がある場所だと思っていたか（Q18）
避難率の高い地域では、自宅付近が危険だと認識していた



土砂災害前、どのような現象を直接見たり聞いたりしたか（Q10）
見聞きされた前兆現象は次のグラフのとおり



災害前、前兆現象らしいものがあることを知っているか（Q 1 1）
住民が知っていた前兆現象の種類は次のグラフのとおり



以上